

“勉強”と“学習”は全然違ふ

私たちは“学習”といふ言葉と“勉強”といふ言葉とをよく同じ意味の言葉として使つてみますが、いやしくも教育に当る者はこの2つの言葉を峻別して使ふ必要があります。

“学習”が、論語の「学びて時にこれを習ふ。また悦ばしからずや」に由来する言葉であるといふことは既に述べました。“学習”とは心の奥底から湧き出る欲求に従ひ、読書や体験によって知識を吸収すると共に、練習を必要とする技芸はこれを十分に練習して、それまで理解できなかった事を理解できるやうにし、実践できなかった事を実践できるやうにすることでして、さうすると心の中が自然と何とも言へない喜びに満ち溢れてくるものなのです。

“学習”が「何とかして知りたい」といふ強い欲求から進んでせずにはゐられない読書や見聞であるのに対して、“勉強”は、課せられ責められて、仕方なしに行ふ読書や見聞のことです。“勉”といふ字は、“免責”の“免(まぬがれる)”と、“努力”の意味をもつ“力(つとめる)”とを組合せて作られた字で、「課せられた学業を果たすため(つまり、責任を免れるため)に努力すること」を表した字なのです。“勉強”は、この“勉”に「強ひる(いやだけれども我慢して行ふ)」といふ意味の“強”を加へ

て作った言葉です。

だから、“学習”してゐる姿と、“勉強”してゐる姿とは、外から見る限り、全く同じ事をしてゐるやうに見えて、区別がつかないけれども、両者の心中には雲泥の相違があるのです。

“学習”は自ら求めて努力するものですから、希望や期待からやる気が充満してゐて、楽しい気持が伴ふけれども、“勉強”は親や教師に命ぜられて仕方なくいやいやながらするものですから、唯ただ苦しいだけなのです。